

=====

ActiveImage Protector 2018 for Express5800/ft サーバ VMware ESXi システム用 Readme
Copyright 2020 Actiphy, Inc.

All Rights Reserved

2020 年 7 月 19 日

=====

このドキュメントには、ActiveImage Protector for Express5800/ft サーバの VMware ESXi システム用 バックアップ・リカバリ環境のシステム要件と、制限事項が記載されています。

本製品を利用いただく前に必ずお読みください。

■ 目次

- 1: システム要件
- 2: VMware 仮想環境上の仮想ゲストマシンのバックアップ・リストアについて
- 3: 本リカバリ環境の制限事項と注意事項

1: システム要件

■対応モデル

Express5800/R320e-E4

Express5800/R320e-M4

Express5800/R320f-E4

Express5800/R320f-M4

Express5800/R320g-E4

Express5800/R320g-M4

※VMware 搭載モデルのみをサポート

■対応する VMware バージョン

R320e: VMware ESXi6.5(Update なし,2), VMware ESXi6.0(Update1b,2,3)

R320f: VMware ESXi6.5(Update なし,2)

R320g: VMware ESXi6.7(Update 1)

各 ft サーバの VMware 対応状況はこちらをご確認ください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140101971>

2: VMware 仮想環境上の仮想ゲストマシンのバックアップ・リストアについて

仮想環境上で稼働する各仮想マシンのバックアップ・リストアガイドは、同梱されております各エディション（Server Edition および Linux Edition）の製品メディア上のドキュメントに記載されています。

各エディションを使用いただく際のシステム要件は、本製品、および各仮想環境を提供するベンダーが公表しているシステム要件の双方を満足する必要があります。ベンダーが公表しているシステム要件については、各ベンダーの Web サイト等でご確認ください。

3: 本リカバリ環境における制限事項と注意事項

- リカバリ環境を起動する際は、USB フラッシュメモリ、USB ハードディスク などのすべての USB マスストレージ、ファイバチャネルストレージなどを取り外し切断してください。
- バックアップでは、CPU/IO モジュール 0、および CPU/IO モジュール 1 にインストールされている、すべてのハードディスクを一括バックアップします。バックアップは、CPU/IO モジュール 0、CPU/IO モジュール 1 双方を起動(両モジュールを実装して起動)し、すべてのハードディスクを接続した状態で開始してください。
- バックアップを開始する前に、システムにインストールされているディスクはすべて RAID デバイスのメンバとして構成済みであり、すべての RAID デバイスのステータスが、本リカバリ環境を起動する前に `esxcli` コマンドにおいて `[in_sync]` の状態であることを確認してください。
- リカバリでは、CPU/IO モジュール 0、および CPU/IO モジュール 1 にインストールされている、すべてのハードディスクを一括リカバリします。
リカバリは、CPU/IO モジュール 0、CPU/IO モジュール 1 双方を起動(両モジュールを起動)し、すべてのハードディスクを接続した状態で開始してください。
- Multi-extent VMFS データストアは常にフルセクタバックアップされます。

© 2020 Actiphly, Inc. All rights reserved. ActiveImage Protector、vStandby、vStandby AIP、ImageCenter、HyperBoot、ReZoom it!、BootCheck、ActiveVisor、ImageIsolate、HyperAgent は、株式会社 アクティファイの商標です。 Microsoft、Windows、Windows ロゴは、米国および諸外国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。その他のブランド名および製品名は、それぞれ帰属する所有者の商標または登録商標です。
